ぼくらの未来のために

L工校　六年一組
高橋　勇登

グレタ・トゥーンベリ、十六才。スウェーデンの少女だ。気候変動の問題に取り組まないことは、学校をさぼることよりも悪いと主張し、毎週金曜日にスウェーデン議会の外に、座りこみ「気候変動のための学校ストライキ」を行っていた。ソーシャルメディアを通して、グレタに共感する若者が増え、今年九月二十日には、世界130か国以上で世界史上最大の気候ストライキが実行され、ぼくの学校からも数名が参加した。

「私の言葉ではなく、科学者の声を聞いて欲しい。」と、グレタはアメリカ議会でうったえた。それは、科学的なデータから、このままでは十年で地球の環境が後もどりできない状況になることが分かったからだ。

石油や石炭などを使って電気が作られ、ぼく達の暮らしは電気のおかげで快適だ。しか

し、その一方で、世界の主要国の発電などによる温室効果ガスの排出量は、2010年時点で約477億トンに達していて、地球温暖化に深刻な影響を与えている。大量の二酸化炭素を排出する火力発電の元となる石油や石炭や天然ガスは、永遠に採取できるわけではない。また、森林がばっ採や焼失で減少している森林破かいの問題も、温室効果ガスの排出量増加を進め、気候変動に悪えいきょうを与えている。ぼくらは「限りある資源を大切にする」ということを忘れてはいけない。

では、どうすれば気候変動を低くおさえられるのか。まず、世界の全ての国が、パリ協定に合意し、グレタのスピーチで説明された科学者達の「1.5度特別報告書」を受け入れ、温暖化対策を2度から1.5度へ直ちに修正する必要がある。なぜなら、報告書では、2030年までに世界の平均気温を1.5度の上しょうまでに食い止めなければ、ごう雨や寒波、干ばつなどの異常気象や、海面上しょうなどによる被

害がさらに広がると考えられているからだ。毎年夏、日本で過ごしているぼくも、はげしいごう雨やもう暑といった気候変動による異常気象を身近に体験して、そのつわさを感じていた。もうすでに異常気象は起きているのだ。

温暖化対策として、再生可能エネルギー開発に積極的に取り組んでいる国もある。ドイツは国の発電電力の電源のうち、すでに30%が再生可能エネルギーだが、2022年までに全ての原子力発電をはい止して再生可能エネルギーの開発に力を入れると発表している。スコットランドやデンマークでは、再生可能エネルギーによる一年間の発電電力量が70%をこえている。それに比べると、日本はたった11%で、アメリカは9%未満だ。もし、ぼくが大人で選挙権があれば、この危機的な状況にもかかわらずパリ協定のり脱を表明したトランプをまた大統領に選ぶことはないだろう。

次に、企業の努力も必要だ。なぜなら、電

力量の70%は企業が使用しているからだ。現在、RE100という大手会社の連盟が、再生可能エネルギー100%を目指している。例えば、ソニーやイオンは、自社ビルや各地の工場の屋上に太陽光パネルを設置して再生可能エネルギー率を増やしている。こうして、少しずつでも各企業が温暖化対策に取り組めば、結果は大きな違いになるだろう。

そして、最も大事なことは、ぼくら一人一人が、リサイクル活動や節電に取り組むことだ。リサイクル・リユース・リデュースの3Rを実行すれば、ごみを少なくして、ごみの焼きゃくなどによる環境への悪いえいきょうを減らすことにこうけんできる。

例えば、一本のアルミニウムかんを作る時、古いアルミニウムかんをリサイクルすれば、5%のエネルギーをおさえることができる。このように、新しく生産するより、再生資源を再利用する方が環境に良いことは明らかである。また、使わなくなったたおもちゃや服な

どの不要品をごみとせず、再使用するリユースも大切だ。ぼくの現地校や補習校でも、読まなくなった本を古本市でリユースしている。そして、リデュースはだれでも今日からできる小さな一歩だ。できるだけごみの量を少なくするために、物を大切に長く使ったり、ペットボトルの水を買わないで水とうを持ち歩いたり、プラスチックのレジぶくろをもらわずにマイバッグを使うなど、ちょっとしたことだ。けれども、みんながこれらを続ければ大きな差になる。ぼくらの行動の一つ一つによって、限りある資源を有効にじゅん環させることができるのだ。

さらに、節電も地球に優しい環境対策になる。例として、エアコンの設定温度を26度から28度に2度上げれば10%、日中の照明を消すと5%の節電になる。他にも、使っていないコンセントをぬいたり、省エネ対応の家電を使うことも役に立つ。

各国政府が発電電力の電源を再生可能エネ

ルギーに移行すること。企業も自ら率先して温暖化防止に取り組むこと。個人が日常生活の中で3Rを意識して行動し、節電や省エネを心がけること。そして何より、周りに温暖化対策の重要さを伝え続けること。グレタからその大切さを学んだ今、ぼくは、この作文を書くことで地球を守ることの大切さを伝えたい。ぼくらの未来のために。

プラスチック問題

W校　六年二組
永井　丈

プラスチックは生活に欠かせない便利なものです。しかし、プラスチック製品のほとんどは、一回使ったら捨てる「使い捨て」なのです。

日本は、今だにプラスチックのふくろを大量に使っていて、少量の買い物でも、わざわざプラスチックのふくろに入れています。これは、買い物のお客さんにとっては商品をふくろに入れて持ちやすいので便利なのですが、ゴミとして捨てられるプラスチックぶくろを増やすことにもつながります。こうしたことが世界中で行われていて、海の中にあるプラスチックゴミの量が八百万トンにも上ります。それは、ジャンボジェット機五万機分の重さです。さらに、プラスチックは自然の中で完全に分解されるまで千年以上かかります。地球全体のプラスチックゴミの量は、一億五千

万トンです。これが続けば、二〇五〇年には海にいる魚と同量になると言われています。今この動きを止めなければ、世界の海が汚れて、魚も死んで滅んでしまいます。

ぼくの父は、リサイクル会社で働いています。父の会社は世界中でリサイクルをしていますが、僕の住んでいる場所の近くでは、ニューヨーク市から出る金属やプラスチック、ガラス等のリサイクルを行っています。先日、父がシカゴで参加したリサイクルのカンファレンスでは、参加者に配られた水が、全部アルミ缶だったそうです。アルミは、百パーセントリサイクルされており、プラスチックとちがって、何回もくり返して使われています。

海の王、アクアマン。マンガや映画の世界だけではなく、現実の世界でもヒーローでした。アクアマンの映画で主役を演じたジェイソン・モモアは、トレードマークのひげをそる動画をユーチューブにのせ、ウォーターイオンキャンズの運動（リサイクルしやすいアル

ミ缶に入れた水を広めようとする運動をすすめて注目されています。それに代表される形で、世界的なスケールで、ウオーターインキャンズの動きが始まっています。水だけでなく、ワインやビールなどもアルミ缶に入れて酒屋やスーパー、マーケットで売られています。

この動きは世界を変えるかもしれない、人類にとっての大きな第一歩だと思います。

僕もこうした動きの中で、一日に使うプラスチックの量を少しずつ減らしていきたいと思っています。例えば、ビニールぶくろではなく、紙ぶくろを使ったり、ペットボトルではなく、カンの水や、何回も使える水筒を使ったら、プラスチックの使用量を減らすことができます。プラスチックゴミの量が少しずつ減り、世界中にあるゴミの山が少しずつ小さくなっていけばいいなと思います。こうすることで、美しい地球を取りもどせると思います。

いちでのりュック

L工校　五年二組

マ沙良

「あれ、かんなは？」

と、ママが言った。ママの顔が白くなった。

この話は、姉のボーリング大会に行った時の話です。わたしはのん気に、あやちゃんとボーリングをしていました。しばらくすると、ママとかんながやってきました。わたしは、お腹が空いていたので、ママからお金をもらいました。その間に、かんなが消えたのです。

ママは近くにいた男の人に、そばにあった男子トイレに女の子がいないか見てくださいとたのみました。男の人は中を見て、いないと言いました。わたしは、ゲームコーナに走っていきました。ボーリングが始まる前に、かんながそこで遊んでいたからです。ママは、出口がすぐそこだったので、だれかにかんなを連れて行かれたのかと思い、外に出ようとしました。すると、ママはその時、出口と反

対側の人ごみのやにかんなの赤いいちごのリュックを見つけました。ママはすぐかんなの所に行き、かんなが姉のレーンにいることを確認し、わたしに伝えにきました。わたしはほっとしました。

この事件で、わたしはかんながわたしにとって、とても大事なそんざいであることに気付きました。いつもわたしは、かんながきらいでした。かんなはおもちゃを散らかしてわたしのする事を増やすし、わたしの大事な物をすてたりこわしたりするからです。

かんなんかいなければよかったのに。

と言って、ママに怒られたこともありました。けれど、かんながゆうかいされたかもしれないと一しゅん思って、あわてたこの出来事のおかげで、かんながどんなに大切な妹であるか知ることができました。

日本への一時帰国

W校　五年一組
中川　椋太

二〇一九年八月前半、ぼくは日本へ旅行に行きました。初めての一人旅です。日本への帰国は二年ぶりだったので、楽しみで、旅立つ前日から時差をなくすために日本時間に合わせていました。出発当日、空港についたとき、楽しみで心臓が高なり、自分を落ち着かせるために常に動き回っていました。飛行機の中ではゲームや映画鑑賞をしながら過ごし、途中、少し寝て起きてしばらくしたら、あっという間に日本に着きました。成田空港を経由して中部国際空港まで行きました。初めての一人旅でしたが、サポートの方がずっとついてくれたので、手続きや荷物の受け取りも簡単でした。

空港には祖父母と従兄弟たちが迎えに来てくれていました。ぼくが先に見つけて声をかけると、

「先に見つけたかったのに。」

とくやしがられました。そこから車で一時間くらいの所の祖父母の家に行ったのですが、従兄弟たちにはさまれて、見せながらゲームをしていたので十分くらいで着いてしまったような感じがしました。

日本では保育園や小学校の時の友達に会いました。まるで昨日まで学校で同じクラスに通っていたかのように、昔と同じように遊びました。昔の雰囲気を取りもどしたような感覚で、とても楽しかったです。

また、日本の夏休み期間だったので、キッズエンジニアというイベントに参加しました。いろいろな自動車関連企業が教室を開催していたので、ぼくはトヨタの燃料電池車教室を選びました。仕組みが高度でおもしろそうだと思ったからです。トヨタの人に教えてもらいながら自分の燃料電池車を設計しました。思ったより単純な仕組みで動いていたんだなと思いました。その後、燃料電池のラジコン

カーで遊ばせてもらいました。普通のラジコンと変わりなく動くんだなと思いました。

日本に行ってぼくが一番驚いたのは、外に出たときの蒸し暑さとセミの鳴き声の大きさです。一歩でも外に出るととてもうるさくなり、まるでサウナにいるみたいな蒸し暑さが襲って来ます。さすが猛暑日、暑いなあと思いました。しかしその反面、昔、ぼくが一年生くらいのころには、こんなに蒸し暑くなかったような気がします。確かに外は暑かったですが、今の方がもっと暑くなったように感じます。アメリカが涼しくて日本の暑さを忘れただけなんじゃないかと言われるかもしれません。でもやっぱり暑くなったような気がするのです。ぼくは、この原因は地球温暖化ではないかと思います。テレビや本でよく森林の伐採、二酸化炭素の排出量の増加、海水面の上昇、地球の平均気温の上昇などたくさん聞いたことがあります。ぼくは今まで身近に地球温暖化を感じたことはありませんでし

た。しかし、今回の旅行で気温の上昇による悪影響を感じたので、ゴミの削減や節電など、地球温暖化の解決につながる身近なことを行っていきたいと思いました。

帰りの予定は八月十五日の便でしたが、台風十号の直撃をうけ、名古屋から成田に行く便が欠航になったので、四日間延期して八月十九日に帰って来ました。台風で帰りの便が延期されると分かったときはとても嬉しかったです。しかし、台風十号の直撃を受けた地域がどうなってしまったのか気になります。つい最近のことを例に挙げると、台風十五号による千葉県への被害があります。この台風は、千葉県全体を一時停電させ、さらに家や電柱の倒壊などを起こしました。今は完全復旧している千葉県の南房総も、電柱の倒壊などが原因で、復旧するのに一ヶ月以上かかったと聞いています。

日本は自然災害が多い国だと思います。東日本大震災や西日本豪雨など、いろいろな大

災害が幾度も起こりました。自然災害は最新の科学を駆使しても、止めることはできません。ぼくたちにできることは、被害を最小限におさえて、災害に備えることだと思います。

帰りはまた空港まで祖父母と従兄弟たちが送ってくれました。とても楽しくて、別れるのがさみしかったです。従兄弟たちといることがどんなに楽しいか再確認できました。しかし、アメリカにいるということも大事なことです。ぼくはアメリカにあと二年くらいいる予定です。ぼくの英語は、まだまだ上達の余地があります。現地校にはげむことはもちろんのこと、他にもいろいろとやってみたいと思います。ぼくの将来に役に立つかどうかは分かりませんが、ここでしかできないような経験を大事にして、このアメリカで、英語や風習を学んでいって、もし将来アメリカで働くようなことがあれば、学んだことを生かしていきたいです。

20×20

はちみつレモン

W校　五年　一組
高本　英奈

「ピーッピーッピーッ」

今何時だろう。時計を見ると朝の六時です。目覚まし時計を止めると、私は今までに起きたことがないぐらいの早さでベッドから起き上がりました。顔を洗うと、私は妹と弟と母を起こしに行きました。

「朝だよ。早く起きて。今日は水泳の大会の日だよ。」

私は大きな声で言いました。私は興奮しすぎていたので、

「急いで。早くしないと遅れてしまうよ。」

と言いました。

「あれ？今日だったの？。」

と言いました。私は興奮しすぎていたので、

「急いで。早くしないと遅れてしまうよ。」

と言いました。

約二時間後、私達はレイクアイルというチームと戦うために、あるビーチクラブへ着い

ていました。私達は少し遅れていたので、すぐに泳ぎ始めました。私はバタフライとクロールと背泳ぎに出場することになっていたので、その三種目を練習しました。ウォーミングアップを終えると、大会はすぐに始まりました。

まず最初に戦ったのはダイビングチームです。私のチームはレイクアイルよりもっと得点を勝ち取りました。次は、待ちに待った入イムチームの試合です。私は最初の種目が初まると同時に、とても緊張してきました。ドッワン、ドックン、私は息をするのも少し大変になってきました。

「お母さん、緊張してきたの。どうすればいい？」

私は母に聞きました。すると、母はちみつレモンというものをくれました。母にはちみつレモンは何かと聞くと、

「これはすっぱいレモンと甘いはちみつが混ざっているから、すごくしげきがあるよ」。

と教えてくれました。この食べ物のおかげで私はとても勇気が出て、緊張もしなくなってきました。お礼を言おうとすると、母はいません。辺りを見回すと、弟と妹の様子を見にいっています。すると突然、私の名前を呼んでいる声がしました。その後、コーチが私の方にやってきて、バタフライを泳ぐ番だと教えてくれました。私は母のおかげでやる気が出ていたので、頑張ろうと心に決めました。

「三、二、一、ピーッ！」

私の番がやってきました。私はまず、練習していたようにキックをたくさんしました。横をちらっと見てしまいそうになりましたが、母が教えてくれたように、自分の事にだけ集中しました。そう思っていると目の前にかべが見えてきました。あともう一回。ピッ。タイマーを女の人はおしました。横を見ると、私は二番目だったことに気付きました。プールから上がると、私は母に言わないといけないことがあることに気付きました。

「ありがとう。お母さん」。

20×20

新しい世界

W校　五年二組
村上慧

アメリカの学校のシステムは日本とちがって六年生から中学校に上がる。私は日本ではまだ小学校五年生だが、今年の九月から中学校に入り校舎も友達も新しくなった。

中学校に上がるまで不安と期待が入りまじっていたけれど、

「期待は不安の倍ぐらいの大きさ。」

と周りの大人には伝えていた。

行ったこともない中学校のことに

「大丈夫だよ。」

と答えることはわたしには出来なかった。

実際に九月三日、中学校の初日がきた。今までではお母さんの運転する車で学校まで連れて行ってもらっていたけれど、今日からは自分でバス停に行きバスに乗らなくてはならない。学校まで着いたらバスを降りて自分のホームルームの場所を探し出して、時間ま

でにたどり着かないといけない。小学校の時にオリエンテーションがあったけれど、私は風邪をひいてしまったので、自分の教室の場所がよくわからなくてとても不安だった。

同じバスには小学校の友達が乗ってくるけれどみんな私と行き先が違う。

「誰に聞いていいのかな。」

「八時十分までに間に合わなかったらどうしよう。」

「迷ったらどうしよう。」

そんな不安に押しつぶされそうになりながらバスに乗った。今日からはお母さんに急かされて家を出るのではなく、自分で時間を見て家を出ていく。

友達がたくさん乗っていたから、小しほっとした。バスは混んでいて一緒にすわる約束をしていた子はもうすでに別の子とすわっていたので、私がすわる場所はなかった。

運転手さんが、

「早くすわって。出発するよ。」

「早くすわって。出発するよ。」
と急かしてくる。そんな時、私の引っ越してしまったちょっと年上の仲良し友達のが、
「けい、ここにすわって。」
となりを空けてくれた。アンジュリは今年、八年生。私の二つ年上だ。
「そうだ。アンジュリに私の教室がどこか聞けばいいんだ。」
と思って、勇気をふりしぼって聞いてみた。
「私、ビタマン先生の教室に行かなくてはならないのだけど、どこだかわからないの。」
アンジュリ、知ってる。」
すると、アンジュリはにっこりわらって
「大丈夫、連れて行ってあげる。」
と答えてくれた。その時に私の心にあった不安がとけて体の中に新しい学校に行く期待がバーっと広がった。
たったニ十分のバスも、なんだかとても長く感じた。
バスを降りると、

「けいまた放課後ね。」
と友達。私も
「また後でね。」
と返す。そしてアソシュリをろ、り返って、
「一緒についてきてくれてありがとう。時間大丈夫。」
とアソシュリに聞くと
「大丈夫だよ。何でも私に聞いてね。」
と言ってくれた。教室に着けば別のバスからくる友達がいるはずだ。と思ったしゅんかん、
「おはよう。けい。」
と声をかけてきてくれた。四才の時にアナリカに来てからずっと一緒の大親友。教室も先生も新しいけれど、変わらないものもある。
中学校初日は目まぐるしくあっという間に過ぎた。言った通り、
「期待は不安の倍ぐらいの大きさ。」
だったし、友達のおかげで不安がどんどん小さくなって、一日が終わったら「期待だらけ

だった。」家に帰るとお母さんが、
「学校、楽しかった？」
決まった言葉だから、いつもなら一言で返事。
でも、今日はとっても嬉しくって、
「とっても楽しかった。先生も優しいし、教室を授業ごとに移動するんだよ。」
といつもよりおしゃべりになっていた。
私は四さいの時にアメリカに来た。知らない人と友達になって知らない言葉を話すようになった。そこで楽しい経験をし、たくさんの先生や友達に助けられて小学校を卒業した。
「そっか、中学校になっても同じだな。」
と気づいた。だって、わからないことは聞けばいい。知らない人は知っている人になり友達になる。これからのワクワクを考えたら、心配なんてしてられない。
ますます、これからの中学校生活が楽しみになってきた。新しい世界が私の前にある。

友達が言ったこと

W校　五年二組
三宅　もも

私は、三年生の夏休みに日本からアメリカに引っこしてきました。その時は、ほとんど英語が分からず、トイレに行きたい事も言えませんでした。そんな時に、ミュージカルやオペラに参加することで、こっちでの生活が楽しくなってきました。学校で初めて放課後クラブのミュージカルに参加した時、オーディションを受けてセリフが少しあるパートをもらえてうれしかったです。けれど、もっとセリフがあるパートをもらった人達を見て、うらやましく思いました。

今年もミュージカルクラブのオーディションがありました。今回は五十二人が参加しているので、たくさんの人がセリフのあるパートをもらえませんでした。オーディションでいい役をもらえた人達は、大きな声ではっきりと話せたり、経験がたくさんあったりしま

した。私の友達は小さいころからミュージカルが好きで、げき団に入っていたので、いい役をもらいました。

ろう下であった時、彼女はセリフをもらえなかった友達をなぐさめた話をしました。

「たくさんのセリフがあるのはつらいよ」。

とうんざりしたように言ったそうです。私は、そんなことと言ったら、すごく傷つくと思いました。なぜなら、その友達が言ってほしかったことは、悲しい気もちをわかってくれるような言葉だと思ったからです。わたしには、彼女の言葉は自まんに聞こえました。セリフがもらえなかった経験があるので、そんな人の気持ちが分かります。

自分だったら、はげましてくれる言葉をかけてほしいです。「大丈夫だよ」「また来年もらえるよ」「あきらめないで」という言葉を言われたら、うれしいです。

この経験を通して分かったことは、ちょっとした言葉で、かんたんに人を傷つけられる

ということです。相手の気持ちを分かってあげることも大切です。

アメリカでも今まで、いっぱい私はつらいことを経験してきました。けれども、いろんな人たちが助けてくれたので、どうにか乗りこえられました。傷つく経験があるからこそ、相手の気持ちが分かると思います。相手の気持ちによりそって考えた言葉をかけることで、人はうれしくなったり、はげまされたり、安心したりします。だから私は、人と話す時には相手がはげまされる言葉をかけたいです。

豚コレラの実態

L工校　四年一組

酒巻祐

みなさんは「豚コレラ」を知っていますか？ぼくは豚コレラの殺処分についてのニュースを見て、心がいたんだので、豚コレラについて調べてみました。

豚コレラは家畜伝染病です。この病気は人には感染しません。また、豚コレラにかかった豚肉を食べても大丈夫です。ですが、豚が感染してしまうと三週間ほどで死んでしまいます。また、感染期間が長いため、イノシシ、ネズミなどに感染して、他の農場にも感染してしまいます。

16×16

日本では二十六年間豚コレラは発生していませんでした。そのため、日本は養豚先進国に入っています。しかし、二〇一八年八月に豚コレラに感染し、一年弱で十三万頭も殺処分されています。

ぼくは殺処分に反対です。国が殺処分を決めると、豚コレラに感染していない近くの農場も殺処分しなければいけません。三十年前のようにワクチンを打てばいいのにと思うのですが国は耳をかたむけないようです。その理由は、ワクチンを使うと日本は養豚進国から外されて「汚染国」とみなされてしまうのです。汚染国とみなされると、海外に豚肉を

16×16

出荷できなくなり、国にも大きな影響が出ます。

ぼくは、たくさんの命をうばうのはよくないと思うので、日本が汚染国になったとしてもワクチンを使うべきだと思います。でも国がそれをみとめないのなら、豚コレラの原因となる、イノシシ、ネズミへの感染をふせぐためのワクチンを作るのはどうかと考えました。もしそれで豚コレラがなくなれば、日本は養豚先進国から外されずに、豚コレラを入トップできるのではないかと思います。

または、豚コレラのワクチンを国ではなく、県や市でやれば養豚先進

国から外されずにすみますが、そうすると何十億円ものお金を県や市が出さないといけないので、そのための募金をするのもいいと思いました。この作文を少しでも多くの人に読んでもらい、募金をしてほしいです。

日本は養豚先進国に入っています。もはや入っていてはいけないかもしれません。これだけ豚コレラが広まっているからです。豚コレラをなくすために、みんなで募金をしたりして、努力したいと思います。

一番年上の姉はつらいって？

W校　四年一組

松本　希帆

わたしの家族は六人家族です。わたしは四人兄弟です。弟が二人いて、妹がいます。いつもにぎやかですが、この三人と毎日けんかしたり、遊んだりするのはつかれます。

わたしは今までずう、と四人兄弟には、ならないと思っていました。なぜなら、三人兄弟でもわたしの友達と兄弟の人数をくらべると、人数が多い方だ、たからです。四人目がふえた時はみんなはびっくりしていました。

わたしが毎日やらなくてはいけな

いことは三つあります。一つは宿題をすることです。二つ目は妹をおふろに入れることです。そして三つ目は弟のそろばんの宿題を手つだうことです。その中の二つは兄弟のことに関係があります。その理由はわたしのお母さんだけでは、全部できないから、わたしが手つだっています。

これはみんな思うことだと思いますが、だれでもお父さんとお母さんからかわいがられたいです。みんな自分はお父さんたちにとって一番大事な子と思われたいです。それはわたしも同じです。ただ、わたしのじょうきょうだと本当にそうなのか分かりにくいです。

わたしを子どもとして大事に思ってくれていることは分かっています。なぜなら、ちゃんといそがしくても気にかけてくれるからです。それでもやはり一人っ子の子たちはうらやましいです。一人だから注目をされるし、きっともっとかわいがられたりするんだろうと思います。わたしの一人っ子の友達は、何かをほしいと言ったら、すぐに買ってもらえる子がいます。物のとりあいにもなりません。全部のおもちゃが自分のものですが、わたしのばあいは、妹や弟といっしょにおもちゃを使わなくてはなりません。自分だけのおもちゃはありません。

16×16

このように、大変だったりつらかったりすることもありますが、兄弟が多いと楽しいこともあります。たとえば、兄弟といっしょにおまごとで遊ぶ時は、いっぱいやくがあってもりあがります。カードゲームやかるたで遊ぶ時も、お父さんとお母さんたちがいそがしくても自分たちだけで遊べます。これは、兄弟がいっぱいるからできます。やっぱりわたしは兄弟がいなかったらさみしかったと思います。兄弟がいてよかったです。つらいこともきついこともあるけれど、兄弟たちを大事にしたいです。

16×16

つなげたバトン

W校　四年一組

落合　彩央里

わたしはこう白リレーのピンクのグループの第一走者です。リレー選手の一番前にすわりました。アナウンサーが

「次は四年生から六年生によるこう白リレーです」。

と言いました。わたしは心ぞうがむねにドックンドックンとあたっています。

「ようし」

ました。赤組のテントから、

がんばれとおうえんしている声が聞こえてきました。リレーをたんとうしている先生からバトンをもらいま

した。わたしは深こきゅうをしました。先生たちがじゅんびはいいねと聞きました。わたしは左足を白い線の後ろにおいて深くうなずきました。

「よーい、バン」。

号ほうの音が鳴りました。けれども、フライングでした。わたしは何回も鳴った号ほうの音でびっくりしました。わたしはスタートにもどり、バンをもっと強くにぎりました。

「バン」。

号ほうの大きい音がまた鳴りました。わたしは、おもいっきり走り出しました。わたしの頭の中で考えていたことは一つでした。それは、全力で走ることでした。カーブではころば

ないように気をつけないといけない
と、お父さんが言ってたので、曲が
る時気をつけました。わたしのお父
さんとお母さんと弟がおうえんして
いました。直線ではもう少しで、わ
たしのクラスメートのクラベルさん
にぬかされるところでした。足がつ
かれてきました。けれどもカーブの
ところでもっと前へ進みました。最
後のバトンタッチのところでわたし
は三位でした。バトンをわたした後、
自分のチームをおもいっきりおうえ
んしました。わたしの後は、ずっと
四位でしたが、最後の六年生の男の
子が一人ぬかし、三位になりました。
赤組はゆう勝しなかったけれど、い

いしょうぶだった。と思いました。

16×16

イエローストーンの間けつせん

W校　四年二組
米川　玲奈

わたしは、この夏にイエローストーンに行きました。その時にオールドフェイスフルやビーハイブガイザーなどの、間けつせんを初めて見ました。

最初に、オールドフェイスフルを見ました。オールドフェイスフルの周りをかこむように、ベンチがおいてあって、ふん出をするのを見た時は百人以上いました。ふん出の時には熱水がすごくたくさん出ていてみんなかん声をあげていました。

次に、ビーハイブガイザーを見ま

した。最初、小さい方のふん出口から熱水が出ていました。その時、レンジャーさんが、

「今、ふん出している小さい方が出てから、十から二十分後に大きい方からふん出するよ。このガイザーはふん出する時はジェット機みたいな音だよ」。

と教えてくれて、その通りでした。

イエローストーンではジュニアレンジャーになるために、問けつせんのことを調べました。イエローストーンの本を読んで、熱水げん象について調べました。

熱水げん象は、地上へのふん出の仕方によって名前が変わります。そ

の名前は、間けつせん、温せん、マッドポット、ふん気こうの四種類です。これら四種類は全て、イエローストーンにあり、熱水げん象が一万以上あるそうです。また、イエローストーンには約二百の間けつせんがあり、世界の約三分の二の間けつせんがイエローストーンにあるそうです。

イエローストーンは熱水げん象が集まっている、世界でもめずらしい地いきです。だから、わたしはこの夏に、すごくいい経験をしたということが分かりました。わたしはそれを知って、すごくうれしいです。

キャンピングカーの旅

W校　四年二組

太田　実奈

一番楽しかった私の夏休みの思い出はキャンピングカーの旅行です。キャンピングカーで一週間生活をしながらユタ州、ワイオミング州、サウスダコタ州、アイダホ州を横断しました。

キャンピングカーの中にはトイレ、台所、ベッドなどがあり、電気もつきます。私は妹と運転席の上の天じょうの低いベッドスペースで、ねぶくろにくるまりながら一緒にねました。

RVサイトに着くと父が水道、電気、はい水のホースをつなぎ、ふつうつ

家のようにすごすことができました。
い動はとても長かったです。運転中
は草原の景色がずっと続きつまらな
かったので、母とトランプをしたり
しました。けれど気持ちが悪くな
てしまうので、ねころんでいること
が多かったです。

こうしてやっと着いたのがイエロー
ストーン国立公園です。火山が活
動していたので、い黄のにおいがく
さかったです。熱湯がわき出ている
所はあざやかなオレンジ色でした。
池の底は真っ青で池の周りのふちの
ていて風がふくと熱さとい黄のにお
いでへんな気持ちでした。小さい穴

から大量の熱湯がふき出して、私の身長よりも高くふん水のようになっている物も見ました。バイソンもたくさん見ました。レンジャーの話によると、年老いたバイソンが体を温めようと温泉によってきて、一年に何頭ものバイソンが熱湯の中に落ちて死んでしまうことがあるそうです。

夜と朝は気温が下がってキャンピングカーの中でも寒かったです。夜にキャンプファイヤーをしてスモアを楽しもうとしたこともありました。初めはたき木になかなか火がつかなくて、こまった父がキャンピングカーの中のガスコンロで火をつけようとしました。これは大失敗。キャン

ピンクのアラームが鳥のようにてしまいました。きゃっきゃっうに強い風がふいてきて、たき火がもえすぎてこわい思いをしたこともあります。その時、私がYMCAのキャンプで学んだ火を消す方法が役立ちました。父と母がペットボトルの水を口の中に入れてプシュッと、水をまきちらして火を消しました。ちょうどよくやけたマシュマロはあまくておいしかったです。

何よりも楽しかったのはプールです。最後にとまったアイダホ州のRサイトの日の前にはジャンプ台、だれも足のつかないとても深いプール、長くて急なスライダーのあるプ

ールがありました。スライダーをすべると初めはおなかがフワッとうくような感じがして、次のしゅんかんにドボンッと水の中におちます。ジャンプ台では手をひろげて飛びこむと、鳥になったように思えます。水の中に落ちると深くまでもぐって耳がキーンとします。鼻をつまむといたさがやわらぎます。ジャンプ台は初めてでしたが、こわいよりも楽しい気持ちでした。

ふり返って見ると、キャンピングカーは自分で好きなように旅が計画できるところがよいと思いました。特に父と一緒にたくさん行動し、冒険できたのが心に残っています。

ぼくと妹

L工校　三年一組

アルク　海

ぼくには年が三つ下の妹がいます。いつもいっしょに外で自てん車に乗ったり、走ったり、家の中でカードゲームやビデオゲームをしたりしてよく遊びます。妹が赤ちゃんの時、お母さんに、

「海はお兄ちゃんだから、妹にやさしくしてあげてね」。

とよく言われていて、妹をあらわ世ようとへんな顔をしたり、くすぐったりしていました。

妹が三さいくらいの時から、少しずつけんかをするようにないました。

ぼくのおもちゃでがってに遊んでいて、それをごわされたり、妹の気げんがわるい時にたたかれたりして、ぼくはとてもおこってしまいました。ぼくたちがけんかをしていたら、お母さんから、

「何でけんかするの？海は六さいでしょ？明はまだ三さいだよ。もし、妹がまちがった事したら、お兄ちゃんが教えてあげないと。」

と、よく言われていました。でも、ぼくは、自分がわるい事をしていないのに、何でぼくが注意されないといけないのかわからなかったし、お母さんにもイライラしていました。

妹が五さいになった時、やっぱり

ぼくたちは、まくけんかをしていました。ぼくがたたいていないのに、妹にたたいたと言われて、大声で泣かれました。ぼくは、どうして、前はなかよく遊んでいたのに、今はけんかばかりなのだろうと思いました。

ぼくが、

「ぼくは何もしてないのに、明にいじわるされるのがいやだ。何でけんかになるのかわからない。」

と、お母さんに相談しました。お母さんはぼくにこう言いました。

「海はやさしいから、明がおねがいしなくても、何でもやってあげようとしたり、明がやった事とかをいちいち声に出してみんなに言ったりし

て、明がお話する事まで自分のお話にしてしまう事があるでしょ？でも、明は自分の事は自分でやりたいし、話したいと思うよ。海はちよっと明のパーソナルスペースに近すぎるかなと思う。

さいしょは、何でやさしくしたらおこられるのがわかりませんでした。でも、まる日妹がぼくの部屋に入って来て、ぼくが一人で遊んでいた時に、ずっと話しかけてきて、ぼくの体の上にジャンプしてきたから、ぼくはいやな気持ちになりました。そして、妹をおしてしまいました。妹はけがはしなかったけれど、泣いてしまいました。お母さんが、なぜけ

んかをしたのが聞いてきたので、ぼくは説明しました。妹は、ただぼくと遊びたかっただけだと話をしておかったけど、ぼくはいやまさたと思ってしまいました。その時にぼくは、お母さんが前に言っていた事を思い出しました。こっちが親なんだと思った事や、楽しいと思って相まにした事を、その人がいやに思う事もある。パーソナルスペースが近すぎるとけんかをしちゃうけど、いつかけんがなくなるもっとなかよしの兄妹になりたいです。

登校はんで歩いてみて

L工校　三年一組
川上　聖苗

わたしは、今年七月の二週間、香川県のとよはま小学校で体けん入学をしました。そこで、子どもだけで歩いて通学するけいけんをしました。

わたしの登校はんは、毎朝七時二十五分に、わたしのおばあちゃんの家に来ます。おばあちゃんの家から学校まで十二分ぐらい歩きます。はん長が先頭で、その後ろを一年生から五年生までが一列にならんで行きます。わたしは三年生なので、前から四番目で、ちょうど列の真ん中でした。

16×16

日本の夏はとても暑くて、毎朝わたしは、交さ点であせがだらだらのまま、しん号が青になるのを待ちました。学校に着いても、あせがたきのように流れて、服が体にくっついたままでした。月曜日の雨の日は、もっと大へんでした。給食エプロン、体育ぶくろ、上ぐつ、水着セットとかさも持たないといけないので、手がいっぱいになりました。ランドセルが重くて、後ろにたおれそうになるのをがまんしながら、一歩一歩、前に進みました。

登校はんで行く時、はん長とはなれないように、同じペースで歩きました。わたしの前を歩いていた二年

16×16

生の子は、みんなより歩くのがゆっくりでした。すると、列に間ができてしまい、後ろにいる人たちが、間をなくすために走らないといけなくなりました。重いランドセルと荷物を持って走るのはつらかったです。登校はんで歩いて行くのがもういやだなと何回か思いました。

通学路には、しん号がない小さな交さ点がありました。道をわたる時は、はん長がはんを止めて、みんなが横に一列にならびました。そしてみんなで車が来ていないが左右をかくにんして、いっしょにわたりました。車のかくにんを終えた後に、車が来ることもあったので、わたるか、

止まるかは、はん長にしたがいました。

心に一番のこったことは、四年生のクラス旅行があって、わたしが代わりにふくはん長になった事です。ふくはん長は、列の一番後ろを歩いて、はんを見守る役目をします。わたしは、今までせきにんがある仕事をやったことがなかったので、わくわくしました。ふくはん長をはじめてやってみて、みんなの安全を見守るのはドキドキしました。一人だけではなく、わたしの前にいるみんなを同時に見ないといけないのがむずかしいと思いました。

わたしは、ニューヨークでは、セ

時三十五分ぐらいに家を出て、親の車で学校に行きます。車の中で、音楽をきいたり、本を読んだり、家族とおしゃべりしたりします。日本の子どもたちは、通学は全部自分でやるので、すごいなと思います。自分たちでランドセルと荷物を持って、交通ルールを守って、歩いて学校に行くからです。わたしは、この夏、登校はんで学校に行って、自分たちで考えて、自分たちでやる、いいけいけんができた事に気づきました。

16×16

新しい先生

W校　三年一組
伊藤　愛真

私は今、げん地校で四年生です。三年生の時から、進級したら姉のたんにんのトシー先生のクラスになりたいとねがっていました。姉のクラスの様子を聞くたびに、「ぜったいにこんな先生がいいな。」と思っていたからです。

トシー先生のクラスになりたい理由はいくつかありました。

まず、トシー先生は、やさしい人に思えます。先生は理科と社会がすきで、たまに実けんをするとも聞きました。私は実けんがすきで近くで

見ながら習えるのが楽しみなのです。

また、トシー先生の教室が二階と三階の間にあってすぐ見つからないこともすきです。なぜなら、ふしん者が入ってきた時に見つけづらくて安心だからです。

そして、なによりもすきなのは、四年生の中でハムスターをかえるのがこのクラスだけなのです。トシー先生のクラスの子は、交代で金曜日から月曜日まで家につれて帰れるし、学校でもハムスターをさわることができます。

姉がハムスターを持ってきた時、本当にかわいいハムスターをつれて帰ってきておどろいてしまいました。

えさをやったり、いっしょにべん強をしたりしました。ボールの形をした入れ物があり、その中にハムスターを入れて、部屋中を自由に走り回らせてやりました。ハムスターをボールから出した時、ハムスターが姉のことをひっかいて血が少し出ていてかわいそうだなと思いました。でもすぐ直ったし、わざとではないと思います。なぜなら、もしわざとひっかいたとしたら、もっと血が出るはずだからです。もっともすきだったことは、毛がもこもこでふわふわでかわいかったことです。私の姉のハムスターのようにふわふわした毛をもっていて、かわいくてやさしい

ハムスターがほしいです。

新学期の少し前、どの先生になったかの手紙がとどきました。私は手紙を開ける前に、ないてしまいそうになる位どきどきしました。楽しみにもしていましたが、どきどきの方がずっと強かったです。すぐ目にしたのは、クラス4T、次に。。。私は言葉が出ないほどに見つづけました。なんと、トシー先生の名前だったのです。私は一しゅん姉の手紙を見ているのかなと思ってしまいましたが、私の名前が書いてあったので、さらに言葉が出なくなりました。少し時間がたち、ふつうに言葉が出せるようになって、母にほうこくし

16×16

ました。私がその時どんなにうれしかったかは、言い表せないほどです。私は四年生になるのがすごく楽しみでした。

新学期が始まりました。今年は、どんな実けんをするのか、どんなハムスターをかうのか早く知りたいです。トシー先生から新しいことをたくさん学びたいです。私は、今のクラスになれてとてもうれしいです。

生きぬくちえ

W校　三年三組

　家族で日本に帰った時、そなエリア東京というぼうさい体けん学習しせつに行きました。このしせつは、さいがい後、七十二時間生きぬくためのヒントを学ぶしせつです。なぜ七十二時間かというと、国が助けるじゅんびにひつような時間だからです。

　ぼくは、自力で七十二間生きられないと思いました。

　しせつでは、暗やみとけむり体けんをしました。暗やみでは、手をかべにあてながらすすむと、大きなけがをせずにすすめるそうです。電気

がきえて、本当にまっくらで何も見えませんでした。暗やみばあまりこわくなかったですが、夕オルで口と鼻をふさいでけむりの部屋に入ると、けむりで暗やみよりも、もっと前が見えなくてこわいと思いました。けむりをすわないようにがんで歩きました。もし本当のけむりならと思うと、きょうふしんがわいて早くこの部屋から出たいと思いました。

部屋から出ると、じしんがおきた後の町が、さいげんされていました。電柱がたおれ、家がくずれて、屋根だけしかのこっていませんでした。あと、家がもえていました。ぼくは、じしんが町をこんなにもこわすカを

知って、じしんへのこわさがました。

次に、ひなん所がさいげんされた広場にいどうしました。そこには、トイレやダンボールで作られた部屋がありました。その部屋に入ってみました。部屋と言っても上からんがのぞけるので落ちつかないし、広さは、子どもがやっと二人ねられそうな大きさで、けっしてらくではないです。あとはハブラシ、ティッシュ、せんめんきなどしかありませんでした。ふとんはなくて、ブルーシートがかわりに、使われていました。これでは、冬だと寒くてよくねむれないと思います。けいたい電話もじ

ゅう電はできるけれど、一人十五分だけと決められて、たいへんだなと思いました。ひなん生活中に大切なのは、はみがきだそうです。なぜかというと、はみがきがたりないとばいきんが、口の中でふえて病気になるからです。ぼくはひなんする時、ハブラシ、はみがき二、そして本を急いで取りに行きたいです。

それから、教えてもらったのは、レジぶくろでこっせつのおうきゅうてあてのやり方です。やり方は、ふくろの両はしを切って、ふくろの手さげ部分を首にかけます。切ったはしからうでを入れると、おうきゅうてあてが出来ます。じっさいに作って

てやってみました。少しグラグラするけど、ちゃんとささえられていました。とてもかんたんなほうほうでした。でも、教えてもらわないとわからなったちえでした。

ここに来てじしんのこわさと、いろいろな、くふうやちえを学びました。もしもぼくがさいがいにまきこまれたらこのちえを使えるようにわすれないたいです。

とくべつな私

W校　三年四組

パテル杉浦　慶良

私は三人姉妹の真ん中です。お姉ちゃんにも妹にもなれて、とくべつな気分がします。妹の立場でいることで良いのは、小さい子みたいにかわいくふるまえることです。たとえば、お姉ちゃんにいろんなことをまかせられるし、お姉ちゃんの友だちが家に遊びに来るのが好きだからです。年上の人がいると安心するから、妹でいることが好きです。

ぎゃくに悪いことは、お姉ちゃんが友だちと話していることを聞かせてくれないことです。たとえば、お

姉ちゃんが友だちと電話しているときに、

「あっちに行って」。

と言われたりします。大きい子のプライベートな話があるから、聞かせてくれないのだと思います。

お姉ちゃんの立場でいることで良いのは、大人っぽくふるまえることです。たとえば、妹の友だちが家に遊びに来ているときは、お姉ちゃんの友だちが来るときとはぎゃくで、いつもより小こい服を着ます。また、みんなが遊んでいるときに、

「楽しいおもちゃがあるよ」。

と言って、みんなのリーダーになった気分がします。

悪いことは責任があることです。たとえば、レストランなどで聞きたいことがあるとき、妹が恥ずかしがるので私が聞かないといけません。お姉ちゃんの立場、妹の立場、どちらも良いこと悪いことがあるけれど、どちらの立場も好きです。二つの立場の経験を同時にできることは、とてもスペシャルだと思います。

そして、私はお姉ちゃんのことも妹のことも大好きです。

16×16

じいじとばあばのお店

L工校　二年一組
楯原　海

ぼくの一ばんすきなお店は、じいじとばあばが作ったレストランです。三十年もやっていたお店です。

お店の名前は「ぱぱすL」といいます。スペイン語でお父さんとお母さんと言う意味です。なり田山のさん道の近くにある、青と黄色

のかんばんの小さな小さな
お店です。
　まどからのぞくとじいじ
とばあばがお料理をしてい
るのが見えます。手前でじ
いじがつくねとやき鳥をや
いていています。後ろでばあば
がほうちょうで何かを切っ
ています。のれんを開けて
中に入ると、
「いらっしゃい。」
とじいじが言います。

「じいじ、ばあば。」

と言うと、じいじはいつも

「はいはい。」

と言います。そして、ばあばがわらいます。

ばあばとじいじはお料理がとても上手です。ぼくのすきな料理がいっぱいあります。コードンブルーは、クリスピーな外がわで中の鳥肉がジューシーで、じいじの自まんのデミグラソー

スがさい高に合います。

レストランのしごとはとてもむずかしいです。毎日買い出しをして下ごしらえをします。メニューにたくさんのお料理があるのでとても大へんです。お客さんが来る前と後のおそうじも大へんです。

夏休みにじいじとばあばを手つだいます。おてつだいで一ばん楽しいのは、市

場での買い出しです。魚とか野さいを買います。おねだんと大きさを見て、新せんでおいしそうなざい料をえらびます。

じいじとばあばは、お店をきょ年しめました。もう年をとったからです。ずっとばばすがあったらいいなと思います。ずっと、ぼくの心の中におぼえています。

読むノート

L－校　二年二組
梅原　まさみ

わたしは、本を読むことが大好きです。本を読むと楽しい気もちになります。

わたしの好きな本は、英語のチャプターブック、まんがのドラえもん、ドラコンボールとコナンです。ここまったくさんとわかったくさんも好きです。一年生の時、長

いちゃプタブックが読めるようになってうれしくて自信がつきました。そしてどんどん長い本を読むようになりました。ドラえもんは、ドラえもんのポケットから出てくる道具がとてもいいアイディアと思います。ドラゴンボールからは、負けてもあきらめないこと、できでも友だちになれること、とを学びました。コナンを

読んでいたら、たんていになりたいと思いました。そして、わたしもコナンみたいにかしこくなりたいです。こまったたさんとわかったたさんは、おりょうりのつくり方がお話になっていておもしろいと思いました。本を読むとつぎにおこることが知りたくてワクワクします。本は、だれかがわたしにおくってくれたメッセージがくっ

入っている読むノートです。

12×12

体けん入学

W校　二年一組
小山　玲奈

わたしは夏休みに奈良の小学校に通っていました。

さいしょの日は給食ナプキンとおはしとコップとふでばこ、ノートと上ぐつをもっていきました。学校まではおばあちゃんの家から十五分です。お兄ちゃんといっしょに歩きました。上

ぐつにはきかえてママとクラスへむかいました。わたしはドキドキしすぎて帰りたくなりました。クラスの前に行くと、

「あ、れいなちゃん。」

とだれかが言いました。わたしはえ？と思いました。クラスの子はわたしの名前をもうしっていました。そして黒板に「れいなちゃんこんにちは！」と書いてあ

ったのです。わたしはうれしくなりました。

さいしょのじゅぎょうは国語でつぎは算数のリットルとデシリットルでした。

な5ってなかったので、むずかしかったです。給食は牛にゅうが少しにがてでしたが、少なかったのでぜんぶのみきれました。ナプキンをよういするのもたのしかったです。そうじをして

きいしょの日が終りました。先生もやさしくて、みんなと友だちになれてよかったです。次の日は図工でした。ねん土をもって行ってカタツムリを作りました。えい語の時間もありました。みんなの前でえい語のえ本をよみました。はずかしくてふるえました。

さい後の日に、わたしはみんなにピンクの自由のぬ

がみのカードを作ってプレゼントしました。

「これすてき。」

といってくれました。わたしはうれしかったです。そしてきいごの日がおわりました。

アメリカに帰ってきてお ばあちゃんが先生から、わたしがあげたカードを宝ものにしている子がいると聞きました。たぶんかりんち

ゃんだと思います。いまで
も思い出せます。

かぞくりょこう

W校二年一組

松山帆奈

わたしは、夏休みに、かぞくでアルーバというしまへりょこうに行きました。

わたしは、毎日そこで、海やプールでおよいだり、魚を見に行ったり、すなはまであそんだり、貝がらをあつめたりしました。さいしょの日、わたしは海の中を

見てび っくりしました。海の水は、すきとお っていて、とてもきれいで、たくさんの魚がおよいでいたからです。魚には、きれいなもようがありました。こんな魚をか ってみたいと思いました。

わたしは、ボートでちかくのしまにも行きました。そこには、イグアナやフラミンゴがいました。とくに

わたしは、フラミンゴが見られて、とてもうれしかったです。なぜなら、どうぶつ園でしか見たことがなかったからです。わたしは、フラミンゴにエサをあげました。エサをあげるときが、いちばんかわいかったです。

毎日いろんなレストランにも行きました。海の目の前でごはんが食べられるしストランで、夕日を見ながら

ら、夕食を楽しみました。
そこで、わたしのたんじょう日のおいわいをしてもらって、うれしかったので、とても心にのこっています。
アルバでは、毎日とてもきれいな夕日が見られます。わたしたちは、船にのって夕日を見に行きました。
夕日は、きれいなオレンジ色に光り、海もオレンジ色に見えました。とてもきれ

いだったので、船にのってよかったなぁと思いました。

わたしは、アルーバに行くまで、海があんなにきれいだとは、知りませんでした。きれいな海の中でおよぐことができて、ほんとうに楽しかったです。

ペルーでかんじたこと

W校　二年二組
西槇　聡一郎

ぼくは、一年生の時、日本からペルーにひっこしました。ペルーに着いておどろいたことは、まずしい人がたくさんおり、道でおかしを売っている人や、お金をくれと言っている人がたくさんいたことです。かれらの多くは、ベネズエラ

から来た人や、ペルーのいなかから来た人たちです。車いすにのって道ろでおかしを売っていたり、小さな赤ちゃんをせおってものを売り歩いている人たちも中にはいました。

ペルーでは、まずしい人がおてつだいさんもあり、アメリカよりもずっときけんな国です。でもペルー人にはやさしい人も多く、ク

リスマスには、まずしい人にパネトンと言うクリスマスのおかしをくばったり、スーパーで肉にこうかんできるカードをくばります。

ぼくは、そんなペルー人のやさしさに心をうたれました。やさしさではんざいがなくなるよの中になるといいなと思いました。

ボーイスカウト

W校　二年三組
早野　友翔

ぼくは、ボーイスカウトに、この九月から入りました。ぼくは、ボーイスカウトの せつめい会に いって、キャンプとか、木で車をつくることが楽しそうだ、たので、入ることにしました。ボーイスカウトは、一人前になれるように、たすけあっ

て、自分のことを自分でできるようにすることです。

ボーイスカウトのグループのことは、デンと言います。

ボーイスカウトでは、キャンプにいったりします。ぼくのデンは、ぼくをあわせて六人います。先週の金曜日に六人でポップコーンを売りました。売ったお金は、ぼくたちのがつどうのお金になるので、売れば売るほ

どういろいろなことができます。たくさん売るためにくふうしたことは、一、ボーイスカウトのせいふくをきて目立つようにした。二、クレストウッドえき前でポップコーンスタンドをつくった。三、電車がくるタイミングにあわせて、ホームにいって電車からおりてくる人に

声をかけた。

四、大きなかんばんをもって売っていることをアピールした。

　これから電車にのる高校生のおねえさんたちや電車からおりてきたおしごとがえりの人、車でとおりかかって、わざわざとまってかってくれた人もいました。二時間やって四百八十ドルあつめました。その気もちが

うれしかったです。

ぼくも、こまっている人やがんばっている人のたすけになりたいです。

そのために、ボーイスカウトでリーダーシップをみにつけて、自分の気もちを人にしっかりとったえられるようになり、思いやりがあって、やさしい人になりたいです。

12×12

ナイアガラのたき

W校　二年四くみ

はたなかりょうたろう

五月のメモリアルデイにナイアガラのたきへ家ぞくで行きました。家から車で八時間もかかったので、とちゅうとてもたいくつだったけれど、早く見たかったので、ワクワクの気もちの方が大きかったです。やっと見たときは、すごいはくりょくでした。

りょくでした。

まず、アメリカがらたきを見ました。アメリカだきの方が、カナダだきより小さかったけど、さいしょに見たアメリカだきは、すごく、か、こよか、たでず。

ナイアガラのたきでは、色々なアトラクションをたいけんしました。

ぼくが一ばんたのしか、たのは、たきの一ばん近く

まで行けるふねにのってたきを見たことです。かっぱをきていても、びしょぬれになるくらい水しぶきがかかって、少しさむかったけれど、たいふうにかこまれているようで、たのしかったのしかったです。水しぶきと風がすごくつよくて、一回ふきとばされそうになったけど、しぜんを体じゅうでおいわえて、とてもうれしかったで

す。こころにのこったことは、レストランがらニつのたきとにじを見たことです。と中きりが出てきてたきが見えなくなったけどきりがはれて二じゅうのにじがかかりました。二じゅうのにじを見ることができて、とてもうれしかったです。なぜなら、二じゅうのにじを見るといつかこううんがおとずれると言われているる

からです。

三日間のナイターがうりょ
こうがおわってまた車でか
えりました。かえりはたく
さんねたので、早くかんじ
ましたのまたいつか行きた
いです。

スイミーのげき

W校　二年五組

大八木　仁菜

わたしがほしゅう校でつかっている「ふ」でばこには、小さなしゃしんが一まい入っています。そのしゃしんは、わたしは東京の小学校で体けん入学をしたときのものです。国語のじゅぎょうで、クラスみんなで「スイミー」というお話のげき

をした時に、先生がとってくれたしゃしんです。

スイミーのげきのじゅんびやはっぴょうをした時に、たくさん気づいたことがあったので、そのことについて書きたいと思います。

まず、クラスみんなで、何のやくをするかをきめました。わたしは、ナレーターのやくをえらびました。三つのグループに分かれて、

同じげきを三回したので、
三人ナレーターがいました。
三人があつまって、げきで
つかうセットを作る話し合
いをしました。げん地校で
は、みんなで話し合う時に、
言い合いになることが多い
ので、その時もそうなるの
かなと思っていたら、ナレ
ーターの二人は、自分のい
見とほかの人のい見がちが
っていても、ほかのい見を

うまくとり入れて、さんせいしていました。セットを作りおわって、げきのれんしゅうをした時、だれかがセリフをまちがえても、文くを言わず、ちゅういをしたり、今どからがんばろうと言ったりしていました。

げん地校では、よく言い合いになります。わたしは、グループワークのときのコミュニケーションのとり方

がちがうなと思いました。

一週間ぐらいかけて、げきのセットをしあげ、れんしゅうをして、本ばんになりました。本ばんは、校長先生やお父さんやお母さんたちの前できちんとナレーターのやくができてよかったです。

おじいちゃん

L工校一ねんーくみ

くさまありな

わたしのおじいちゃんは、

びょういんにいます。おじ

いちゃんはずっとねたまま

です。おばあちゃんやおか

あさんがはなしかけても、

なんにもわがりません。で

も、ときどきめをあけたり

あしをうごかしたりします。

わたしがはじめてびょう

いんにいって、おじいちゃ
んちをみたとき、これくてそ
ばにいけませんでした。で
も、びょういんにたくさん
いったので、だんだんこわ
くなくなりました。
わたしがおじいちゃんの
あしをそっとくすぐると、
おじいちゃんのあしがぴく
っとうごきました。わたし
はおもしろくて、なんかい
もおじいちゃんのあしをく

すぐりました。

おじいちゃんは、いまもびょういんにいます。そして、ずっとなにもわからないままです。わたしは、おじいちゃんがはやくよくなるといいなとおもいます。

はじめてのきゅうしょく

W校　一ねん一くみ

さ々田　まなか

わたしのはじめてのきゅうしょくは、とんでんきたうどんです。

わたしは、七月にさっぽろのおじいちゃんとおばあちゃんのおうちに、ママとあそびにいきました。その

ときに、とんでんきた小学校にべんきょうにいきました。

はじめて小学校にいったた日に、わたしは、きゅうしょくとうばんをしました。わたしは、マイメロディーのエプロンと三かくきんとマスクをつけました。手をあらってから、げんきくんとわたしは、ごはんをおさらにいれました。れおくん

とりんちゃんは、おにくをいれてくれました。なぎさちゃんとそうじろうくんは、スープをいれてくれました。みんなのきゅうしょくのじゅんびがおわってすわったら、みんなでげんきいっぱいに、

「いただきます。」

といいました。

コネチカットの小学校では、せきにすわった人から

たべはじめます。日本の小学校では、みんないっしょに、たべはじめます。わたしは、日本の小学校のように、いっしょにたべはじめるほうが、いいとおもいました。

みんなでいっしょにたべたきゅうしょくは、とってもおいしかったです。

ぼくのゆめ

W校一ねんニくみ

おがのいたる

ぼくのゆめは、二せいぶ
つがくしゃになることです。
二せいぶつがくしゃとい
うのは、おおむかしのいき
ものを、いわのなかのかせ
きからはっくつしてしらべ
るひとです。

ぼくは、きょうりゅう
がだいすきです。

ぼくは、いつもずかんの
えをみてかみにきょうりゅ
うをかいています。
きょうりゅうにはそうし
よくとにくしょくがいます。
そうしょくはくさやざっそ
うなどをたべていました。
にくしょくはそうしょく
のにくをたべていました。
きょうりゅうがくらしてい
たころのうみやそらにも
いろいろなどうぶつがい
ま

しました。

ぼくはきょうりゅうのこと
をもっとしらべたいです。
だからぼくはこせいぶつ
がくしゃになりたいです。

No1

りんごがり

W校　一ねん三くみ

つじ村　えれな

わたしは、きょねんのなつに、ロサンゼルスから二ューヨークに、ひっこしてきました。そして、九月にはじめてりんごがりにいきました。しんせんなやさいがあって、とるのも、たべるのもたのしかったので、ことしもかぞくでいきまし

た。きょねんよりすこしおそいじきにいったので、まだたちがうやさいがありましたなすび、ピーマン、いんげんまめ、ズッキーニ、とうもろこしなどをとりました。おいしそうないろや、大きくそだっているのをさがすのが、たのしかったです。とうもろこしは、とってすぐにかわをとってたべてみました。あまくてジュ

「シーでとってもおいしかったです。だから、たくさんとりました。りんごは、いっぱいしゅるいがありましたが、赤いのもあまかったけど、きみどりいろのりんごのあじがいちばんおいしかったです。かえってからやさいは、てんぷらにしてたべました。みんなで、

「おいしいね。」

「しんせんだね。」

とはなしました。つぎの日りんごでアップルパイをつくりました。それもとってもおいしかったです。またらい年もいけたらいいなとおもいます。

12×12

ママのいない二しゅうかん

W校　一年四組

石田さき

わたしは、十月十三日までおとうさんとおねえちゃんといっしょにおうちにママがかえってくるのをまちました。ママと空こうにいったとき、

「おやつをかってくるよ。」

といいました。そのことをきいてわたしは、がんばれ

るとおもいました。

ママといっしょに空こうについて、わたしはなきました。わたしのおねえちゃんがわたしに、

「わたしもかなしいよ」。

といってくれました。

おうちにかえったら一つのお人ぎょうをママだとおもいました。わたしは、ママがいなかったあいだ、いつもせんたくものをたたんで

でいました。シャワーのおんどもじぶんであわせました。

みんなでママを空こうにむかえにいきました。ママがかえってきてうれしかったです。プレゼントをいっぱいもってきてくれたこともうれしかったです。